

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	323
		決裁期日	平成 23 年 7 月 8 日
名 称	上富良野町住生活基本計画策定委員会 第 1 回会議		
日 時	平成 23 年 7 月 7 日（木） 午後 3 時 00 分～午後 4 時 47 分		
場 所	保健福祉総合センター 研修室		
出席者	町長、策定委員14名、事務局2名、委託調査会社2名（別紙名簿のとおり）		
内 容	策定委員会の第 1 回会議を開催、その概要は次のとおり。		
	<p>1. 開会</p> <p>町民生活課生活環境班から開会を宣言し、欠席の委員を報告。委員長・副委員長の選出まで司会進行を務める。</p> <p>2. 委嘱状の交付</p> <p>向山町長から出席した 14 名の委員に委嘱状を手交。</p> <p>3. 町長挨拶</p> <p>向山町長： 皆さんこんにちは。お忙しく暑い中、第 1 回目の会議に出席いただき大変ありがとうございます。また、先ほど委嘱状を交付させていただきましたが、皆さまには快くお引き受けいただきお礼申し上げます。とりわけ苫米地学長様には大変お忙しい中に上富良野町のためにご協力いただき改めてお礼申し上げます。</p> <p>少子高齢化、人口減少時代を迎え、全国的に住まいをどう位置付けていくかが大きな社会問題になろうとしている中、平成 18 年に国において住生活基本指針が示され、これを受けて北海道においても平成 19 年に計画が策定されてきた経過にあります。そういう流れを受けて、上富良野町においてもこの度、住生活基本計画を策定するためにこの策定委員会を立ち上げるにいたったところです。</p> <p>上富良野町も住民皆さんの住に対するライフスタイルが大きく変わってきております。それと合わせて町としても上富良野町の住まいをどう導いていくか、どのように位置付けていくかが、将来のまちづくりにとって欠くことのできない大きな基本的な課題であります。まちづくりそのもののあり方が、この住のあり方と連動していることから、この委員会で示される計画によってまちづくりの方針を定めていきたいと位置付けております。大変大きな課題ではありますが、この先行きを導いていかなければ上富良野町のまちづくりの基本が策定できないことから、皆さまにはご苦勞をおかけしますが、将来の住のあり方や環境問題など広範な課題について、ぜひ活発に議論いただきご意見をいただけることを心から期待申しあげ挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。</p>		

※この後、公務のため退席。

4. 委員の紹介

生活環境班主幹から委員の氏名と所属先、事務局、調査会社について説明し、それぞれから自己紹介が行われた。

5. 委員長・副委員長の選出

生活環境班主幹： 設置要綱第7条の規定に基づき、委員長、副委員長を選出していただくにあたり、今回は初めて会う場になり、皆様からいきなり委員長などの選出は出ないのではないかと思います。この計画は専門的な分野になることから、事務局から腹案として推薦させていただきたいと思えます。北海道工業大学の苫米地先生を委員長として、会議の進行をお願いします。副委員長には、上富良野町商工会の工業部会長をされている佐川さんをお願いしたいと思いますので、委員皆さんにお謀りします
会場から拍手あり。

承認をいただけたということで、苫米地先生と佐川委員には席の移動をお願いします。

6. 委員長挨拶

苫米地委員長： 北海道工業大学の苫米地です。私の専門は積雪寒冷地域の雪・氷で発生する建築の技術に関する問題、積雪寒冷地における住宅や大型建物の計画が専門です。これまでも市町村の色々な計画を策定するときの委員を務めたことがあり、その中で感じていることは、それぞれの市町村の書庫にはこの手の計画書が高く積み、そのほとんどはほこりをかぶって二度と見られない状況になっていることです。私が関わってきたものの初めの会議には、まずは皆さんが気軽に手にとって見られるような、あまりぶ厚いものを作っても見る方も大変ですので、できるだけ薄いものにして、もっと詳しく調べたい場合には資料編を見るように心がけてくださいということをお願いしています。今回も二度と開かないような基本計画書にならないように、皆さまのご意見を集約し基本計画をまとめ上げたいと考えています。

こういう計画を行う時は、専門家ばかり集まると、まず会議を1回開くところこういうものだとなってしまいがちです。この上富良野町での住生活基本計画はこちらにお住まいの方々がどう考えているかという意見がたくさん出てこないとなかなか計画に反映されませんので、ぜひ皆さんそれぞれのお立場で忌憚のない意見をいただきたいと思います。

町にお願いしたいのは、ほこりをかぶっている計画書の中に、これと似たような調査とかがあるはずなので、次回までに中身をしっかりと読んで、どなたに伺っても答えられるような状況にしておいてもらいたいと思いま

す。

私も言いたいことを言いますので、皆さんも自由なご意見をいただけるようによろしくお願いします。

佐川副委員長：先ほど商工会の代表と言いましたが、商工会も厳しい状況になっております。昨年からの省エネルギービジョン、新エネルギービジョンにも策定委員として参加させていただいておりますので、このことも踏まえながら皆さんと意見を交換できたらいいかなと思っています。忌憚のないご意見の中で一緒に話し合った方がよいと思っておりますので、よろしくお願いします。

7. 議事

規定に基づき委員長が議長となる。

委員長：議長として議事を進行します。会議の予定は4時20分までとなっておりますが、議事の進行状況を見て、少し伸びるようであれば途中で休憩をはさみたいと思います。議事にしたがって進めたいと思います。本日の議事は4つありますが、1番と2番は関連がありますので、事務局から説明をお願いします。

(1) 計画策定の趣旨及びスケジュールについて

(2) 上富良野町の概要、住宅事情など

資料に基づき事務局から説明する。

委員長：今、事務局から今回の計画をまとめ上げるための背景みたいなことについて説明がありました。ここで少し時間をとりまして、皆さんは実際ここにお住まいになっていきますから、先ほどの説明についてご質問があったらお伺いしたいと思います。今日は1回目ですので、順番にご意見を伺いたいと思います。

委員：説明が長くわかったようなわからないような感じで受け止めています。本来であれば何回かこのような会合があった中でどうでしょうか聞かれるのであれば答えやすいのですが、只今説明を受けた中でどうでしょうかと聞かれても意見は持ち合わせておりませんが、この次のアンケート調査について若干の意見が出るかなと思っています。

委員長：趣旨はご理解いただけたと思いますので、アンケート結果についてよろしくお願いします。

委員：宮町の福祉推進員をやっています。上富良野小学校の建て替えがあると聞いています。宮町会館があり、そこで地域の老人を支えようとしています。宮町には163人の老人がいて、そこで何かしようとしても場所が狭い状況です。かみんでは場所が遠くて足の問題が出てきます。宮町に学校があるので、もしオープンスペース的なものができれば、地域の中で老人も子供も集えすごくいいと思います。

委員長： 只今のようなご意見が重要です。基本計画を作っていくときに、既存の建物をただ今までのように作るのではなく、それをどう活用するか、こういうものを作ってくださいという意見は重要です。実際、子どもの数がどんどん減っているようなところでは、只今の提案のようなことを実践しているところもあります。空き教室がどんどん増え、高齢者と子供たちのふれあいに活用できる場合もありますので、そのようなご意見が参考になるので次回からもお願いします。

委員： 困っている人の部分を優先するのか、町全体を通して住みやすい街をメインにするのか、どっちを考えていくのですか。

委員長： 一番難しいところだと思います。そのようなことについてもご意見ありましたら資料を見ていただき、次回にご意見いただければと思います。

委員： 将来的に町として公営住宅をどうしていくのか、新しく建て替えるのかどうか。資料を見たら昭和49年などの建物もかなりある。これは基本計画の中に入れて、どうしていくのかをアンケートも見ながらコンパクトにできればと思う。公営住宅に伺っていると、夫婦二人で65歳以上になると、ほとんど子どもも片付いているので、茶の間と寝るところがあればよいようで、バリアフリーをきちっとやって入っていただくことも考えてはどうかと思います。高齢者に優しい住宅づくり含めて考えてはどうかと思います。

委員長： 今の問題は非常に町が将来どうするかという重要なことですので考えをお聞きいただきたいと思います。私も今日で上富良野町は5回目位になり、町を何度も歩いたが、この町の規模にしては公営住宅がずいぶん分散しているなど感じました。只今のご意見は今回の計画の中にきちっと盛り込まないといけないような項目だと思しますので、そういう視点で次回もお願いします。

委員： 避難地域について、避難場所が指定されている中で心配していることは、上富良野小学校は相当の人員が殺到すると思いますが、地震時の耐震は大丈夫なのかと心配しています。皆さんがあそこに行っても大丈夫かと言っており、かえって危ないじゃないかと聞かれます。

総務課長： 昨年、耐震調査を学校と役場で行いました。学校については、一定の耐震性能をもたなく、震度6以上の地震にはもたないとの判定がされています。今現在、27年度まで学校の耐震事業を計画に上げてあります。上富良野小学校については、今年基本設計、来年実施設計、再来年からの着工になりますが、耐震というよりも老朽化しているので建て替えということで、26年度までに新築される予定です。それまでは震度6以上の地震がないことを祈っています。

委員： 泥流は地域の高低差もあるが、地震も含めてあそこに行っても大丈夫かとの声を聞きます。

総務課長： 泥流は幸いにも過去の経験値からすると、上富良野小学校は大丈夫になっています。

委員長： 防災計画というのが今は非常に重要な項目になりますので、住生活基本計画をやるときには、どこかに含んでいかなければと思うので、貴重な意見ありがとうございます。

委員： 私の地区に緑町団地があり、42戸のうち36戸が空き家になっており、入っておられる方は満足しているようです。行政側も新しいところに誘導することを言っていると思いますが、安い家賃で住みなれた場所にいたいということもありまして、なかなか住み替えができないこともあります。今後の課題として環境整備もよろしくお願いします。

委員長： 緑町団地については私も見ましたが、居住者を優先するのか、町全体をどう考えるのか、どこかでどなたが英断しないとあの状態を放置せざるを得ない。それがいいのかどうかというのは、行政の方たちが早急に判断せざるを得ないだろうと思います。そういう問題も抱えていると思いますので考えていきたいと思います。

委員： データの中に年齢構成表が出ていません。今後、独居老人とか、あと5年10年後にはどの位の構成になって、どういうふうになっていくのだろうか。データを見たうえで、本当にこの公営住宅が必要なかどうか。もしかしたら住民たちは老人ホームとか集合住宅的なデザインの建物が必要と考えているかもしれません。前と違ってものすごく考え方が進んでいます。今のここで良いよというのではなくて、一人で住むのはやっぱり不安だとか、住宅も集合型住宅でプライバシーは守れるような形態がいいのではないかということも含めて、アンケートの中にもそういうふうな部分も入れていただければと思います。本当に独居老人の生活管理を考えていかないと、上富良野は他の地域に比べて構成比が高いかと思いますので、そういう部分ももう少し入れていただければと感じました。

委員長： ご指摘のデータはあるはずですから、次回までに用意してください。

委員： 老朽化した古い公営住宅が残っています。年配の方が入っておられるが、我慢して入っているのかなと感じます。お邪魔したこともありますが、本当に寒いです。お年寄りになると、暖かいのが本望と聞きます。これからは古い建物は新築していくと出ていきましたが、現状の部分においても、住宅の構造的な改善として、水洗化や暖房設備の措置をしてあげることもお年寄りの方には課題と思います。

副委員長： 昨年、新エネルギービジョンに参加させていただきましたが、今日の冊子の中に省エネルギーと新エネルギーのことも一緒に含まれて書かれていることに対して非常に安心しました。冒頭に委員長がお話したように、指針とかの書類ができて、それではい終わりというのがどうも気になっていたところなのですが、まちづくりに対しての計画がいろいろと

網羅されていることに安心した面があります。同時に、先ほど北向課長が話されたところなのですが、私が気にしているのは、この策定委員は一つには住宅そのものの質の向上で、これらに関しては居住住宅そのものの品質を確保するということが一つと、もう一点は上富良野町独自のまちづくりをどうやっていくかということが書かれていることだと思っています。北向課長が話したとおり、十勝岳の景観というものは、他の日本中どこを探しても無いわが町独自のものなので、ぜひとも永遠に十勝岳の景観を意識しながらまちづくりをしていってもらいたいなと思います。それを具体的にどうしていくかが、今のところまだ一般の町民にはわからないし、私たちにもわからないので、厚い冊子というよりも、むしろ大きなパンフレットとかポスターで、私たちはこういうまちを目指していますというような、一般町民もわかるような力強いポスターがあれば、町民も一緒になって動くのではないかと思います。

委員長： 少し時間が延びますが、アンケート調査についての説明を受け、最後に意見交換したいと思います。

(3) アンケート調査について

資料に基づき事務局から説明する。

委員長： アンケートはいつまで完成すればよいのですか。

事務局： 1週間程度の間、委員から意見を出していただきたいと思ます。

委員長： アンケートは皆さんが直接答えてみて、これは答えにくいなどがありましたら、7月13日の水曜日までに事務局までお願いします。実際に皆さんがアンケートに答えられたときに、分からないことやこの項目はあったほうがいいのかがあります。全部反映できるかは分かりませんので、アンケートはあまり長くなっても答える人も嫌になりますから、そういうことも踏まえてこの程度のボリュームにしてございます。ご意見を来週の水曜日までをお願いします。

委員長： 私が気になったのは、問2で二つの選択しかないのですが、例えば問7の周辺環境について仮に買物と通院の二つだけだと、市街地内にいる方のほうが圧倒的にほぼ満足とか普通が多くて、市街地以外の方が不便だと思ような気がします。少なくとも町名を選択することはどうでしょうか。

事務局： 住民会は25の形に分かれており、そのような形もあります。

委員長： 答える方が直ぐそれが理解できるかどうかです。

事務局： 答えることは大丈夫だと思います。

委員長： 選択がこの二つだと、クロス集計を行ったときに良く分からないような気がします。

委員： アンケートは400出すようだが、地域別、年齢別にも出すと思うが、

東明住民会では公営住宅は40戸あるが、固まらないように全体的に出すこととなりますか。

事務局： その通りです。

委員： 上富良野をいくつかに分けてはどうか。二つであれば半分の方は市街地になる。

事務局： 区域はいくつかのブロックに分けて考えてみます。

委員長： アンケートに関しては来週の水曜日までに意見を事務局までお寄せいただきたい。

委員長： 今日用意された3つの項目が終わりましたが、全体を通じて何か質疑、意見はありませんか。

委員長： 私から行政の方にお伺いします。この委員会の進行状況をホームページにアップすると言っていましたが、皆さんはホームページを毎日ご覧になりますか。あと、普及率ほどのくらいかということなのです。ホームページにアップするのは、それはそれとして一応公開しているというアライバイ作りにはいいのですが、一方で町の広報誌はどの位の間隔で発行していますか。

事務局： 一月2回で、10日と25日に発行しています。

委員長： それであれば、そこにある程度のスペースをとって、第1回目の委員会ではこのようなことをやりました、詳細を知りたい方はホームページをご覧くださいとかにしてはどうですか。スペースがあまり取れないのであれば簡単なことを載せてはどうですか。

スケジュールでパブリックコメントとあるのですが、これは住民の方に通じるのでしょうか。

事務局： 広報でこの手法についてお知らせしています。

委員長： このカタカナ英語が町民の方に通じるのかどうかです。

町民生活課長： 広報には、こういうことを策定しますので皆さんのご意見を求めていますと書いていますので、パブリックコメントの言葉も出てきますが、分かりやすい言葉でお知らせして意見を求めるようにしていますので通じると思います。

総務課長： 平成17年からパブリックコメントを20本位行ってきました。パブリックコメントという意味が理解されているかどうかは別にして、意見はゼロもありますが、十数件いただいている経過にあります。町内の9箇所の公共施設に箱を設置して、インターネットでもお知らせし、かなり制度は浸透しているかなと思います。

委員長： そういう町のインフラ状況、パソコンの普及状況を考えながらやらないと、証拠を残すためにはいいのですが、もう少しそれぞれの地域の実態にあったような広報の仕方をしないと住民の方に伝わらないと思います。いろんな町村でやったときには、おばあちゃんにホームページを見ろといっても駄目なのだから普通の回覧板でくばりなさいとかということも

やりました。上富良野町は世帯数が多く、この半分くらいのところではそういう方法をやってもらいました。この辺のところは皆さんが日常的に自分ではどのように情報を得るかということも含めて、少し行政側に言わないと、たぶんアリバイ的なことだけしか行政はやりませんから、皆さんのほうから言っていたら改善されないと思います。是非、言ったほうが町のためになると思います。

その他、何かございますか。

委員： アンケート調査は400出すようで、世帯数4,000ちょっとの約1割の世帯にアンケート調査を実施するわけですが、こういうアンケート調査の趣旨の中身から言って、1割のアンケートの数が適正なのかどうか。1割の400という根拠はどこにあるのですか。いろんな計画づくりでパブリックコメント、町広報を通じて意見を募集しているのかどうか。現実的な問題として、なかなか町に意見を申し上げるというのは難しく、実際問題アンケートに書いてくれる人はいないと思う。もし町が本当にやる気があるのであれば、各住民会長にこういう会合のあるときに、こういう問題に対して地域はどう考えているかを把握して会議に臨んでもらうとか、こういう形のほうが実効性は上がると思います。一人一人の意見というのは、極端な話し抽象的な意見も入ってくるので、ある程度地域の代表の方が意見を集約して会議に臨んでもらったほうが方向性は見えるのではないかと思います。住民会長にはご苦勞をかけるがそのような形の方向で持っていたほうがいいと思います。パブリックコメントというのはやったという証明にはなるのだけど、実際にきちっとした意見が出てこなければ意味がない。そこら辺というのは多少改善の余地があるのではないかと思います。

委員長： 重要な意見だと思います。アンケートの10%について説明をお願いします。

事務局： 統計調査を行う場合に、テレビの視聴者調査などは3~5%です。そこから考えて1割位で皆さんの意見は拾えるのではないかと考えています。

委員長： 中瀬さんの意見は重要で、私がほかの町村に関わったときに、アンケートの結果が皆さんの普段感じているような結果かどうかということどこかで確認しないと、アンケート結果とういうのは統計という観点から見るといいのですが、色々問題もあります。委員会でアンケート結果をまとめたときに、この結果が本当にこの地域にお住まいになっている方々がみんな感じているかどうかです。どこかでチェックしないといけないと思います。中瀬さんの意見のように住民会長の方々にご協力をいただけるなら、今回の調査結果について皆さんが感じていることとどうですかと聞いて見ることもいいと思います。住まわれている方の感じていることと、アンケートの結果で出てきたことは随分離れている例もあります。ただいまの意見は重要ですので、町でどう進めるかは考えていただかないと、

ここでの基本計画はただの絵に書いたもちみたいな感じになる可能性があります。その辺のところは、少し町と町にお住まいの皆さんとで調整して、どうするかということを考えられたほうがよいと思います。

その他ありますか。

委員： 25 の住民会があり、郡部が 13 で市街地が 12 ある。郡部にはほとんど地域の会館がありますが、市街地にはあるところと無いところがある。高齢化になってくるので、遠い場所には足の不自由な方もいて、地域の中に会館があればみんなが寄って話もできるし、行政の話などいろんな話ができる。行政が来ることもできる。会館の設置について計画に触れてはどうかと思う。

委員長： ただいまのような意見も重要ですので、この委員会とは別にアンケートの結果がまとまったときに、ワーキングなどで地域のお住まいの方と行政の方が調整していただければと思います。今のような意見は是非反映していただかないと、なかなか地についた基本計画にならないのじゃないかと思いますので、是非どんな形でもいいので意見を尊重していただいたほうがいい計画になると思います。

そのほか何かあります。

無ければ、時間をオーバーした進行にお詫び申し上げ、事務局に戻したいと思います。

事務局： 次回の会議について、予定として 9 月 22 日の木曜日、午後 1 時 30 分からこの会場で行いたいのでお願いします。会議の資料は 1 週間前にお届けさせていただきます。なお、仕事等で欠席の場合は、会議の結果について説明させていただきます。

終了： 午後 4 時 47 分

上富良野町住生活基本計画策定委員会名簿

(平成23年7月1日現在)

役職名	所 属	氏 名	第1回 (7/7)
委員長	北海道工業大学長	苫米地 司	出
副委員長	上富良野町商工会 工業部会長	佐 川 泰 正	出
委員	上富良野町都市計画審議会	中 瀬 実	出
委員	上富良野町都市計画審議会	仙 波 恵美子	出
委員	上富良野町教育委員会	三 熊 邦 彦	出
委員	上富良野町民生児童委員協議会	丸 田 武	出
委員	上富良野町民生児童委員協議会	檜 野 春 雄	出
委員	町営住宅入居者選考委員会	上 村 延	欠
委員	上富良野町住民会長連合会 緑町住民会長	早 川 俊 博	出
委員	(公募)	前 原 久 恵	出
委員	(公募)	芳 賀 実	出
委員	総務課長	田 中 利 幸	出
委員	建設水道課長	北 向 一 博	出
委員	保健福祉課長	坂 弥 雅 彦	出
委員	町民生活課長	北 川 和 宏	出
事務局	町民生活課生活環境班 主幹	林 敬 永	出
	町民生活課生活環境班 主査	谷 口 裕 二	出